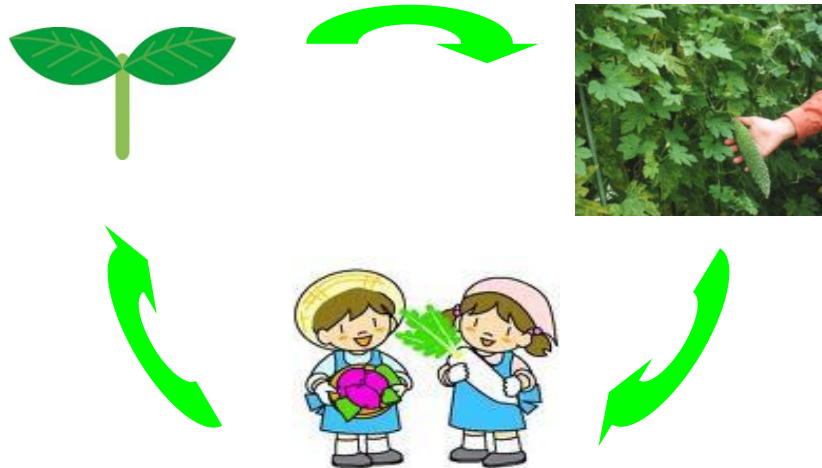


はじめよう！ダンボールコンポスト

家庭でできる生ごみ循環生活



発行：青梅・生ごみぐるぐるネット

ダンボールコンポストとは？

ダンボールコンポストとは、段ボール箱を利用した生ごみ処理器のことです。

その仕組みはダンボール箱の中に床材となるものを入れた簡単なもので、好気性（酸素を必要とする）の微生物などの力によって生ごみを分解し、堆肥にするというものです。

ダンボールを容器として使うことによって通気性がよくなり、生ごみの水分を蒸発させて抜き出す効果と中の好気性微生物に酸素を供給して生ごみの分解を促す効果が得られます。

ダンボールコンポストのメリット（長所）

■ 電気を使わない

ダンボールコンポストは微生物の力だけで生ごみを分解処理するので、生ごみ処理機のように電気は使いません。

■ 材料が安い

ダンボールコンポストはダンボール箱と床材があれば出来ます。特別な容器や機械を購入する必要がありません。

■ 安全な肥料として使える

ダンボールコンポストからできた堆肥は、安全な有機肥料として、畑や家庭菜園などで使用できます。

■ 指定ごみ袋の購入量が減る

ごみの量が減って、使用する指定ごみ袋の大きさが小さくなるか、もしくは回数が減ります。

■ 生ごみの処理が楽になる

生ごみが傷みやすい暑い時期でも、ごみ収集のない年末年始でも生ごみの保管に困りません。

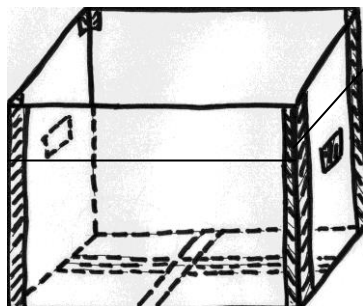
1. ダンボールコンポスト・準備をするもの (4人家族の目安)

- ダンボール箱 (二重構造のしっかりしたもの)
- ピートモス 15ℓ
- もみ殻くん炭 10ℓ
(ピートモスとくん炭は3:2の割合)
- 新聞紙 朝刊2~3日分
- ガムテープ (布ではなく紙質のもの)
- コンポストの台 屋外はレンガ・ブロック等2個
室内はラップの芯・牛乳パックなど
- コンポストキャップ
- 新しいゴムひも(二重にかけます。)
- 攪拌用具(古いしゃもじやゴム手袋)
- 温度計 (あるとよいもの。)



2. さあ、ダンボールコンポストを作りましょう!

①ダンボールを下の図のようにふたを立ち上げ、角と底部に紙テープを貼り補強をして下さい。取っ手のところも穴があいていると、虫が侵入しますので、外側と内側からテープを貼って下さい。



③床材を作ります。ピートモスとくん炭を入れてください。(箱の6~7割くらい。)



②底部の広さに合わせて折りたたんだ新聞紙2日~3日分を水分吸収と補強のために敷いて下さい。(床材投入後、キャップをかぶせゴムひもを二重にして虫が入らないようにします。)

④ピートモスとくん炭をまんべんなく混ぜてください。くん炭が舞うので霧吹きをしながらやるとよいです。



3. さあ、生ごみを投入しましょう！

基本的に私たちが口にすることは入れて大丈夫です。(塩分についても)
水分もほどほどに必要なので、水切りはしなくても大丈夫です。

①入れてよいもの

野菜くず、食べ残し、魚の内臓・小骨、果物の皮、廃油(食用)、茶殻(よくほぐしてから)、
コーヒーかす、麦茶

②分解の遅いもの

タマネギの皮、カボチャ・梅干の種、卵の殻、魚・肉類の太い骨、トウモロコシの芯、竹の子の皮

③入れてはいけないもの

貝殻、落ち葉、生花、タバコのすい殻、プラスチック類

①投入する生ごみは700g～1kgが適量です。生ごみを小さく切ると分解が早くなります。

②1日目。半分か片隅に穴を掘り、生ごみを入れて床材をよくまぶしてください。



③それからよく床材をかぶせてください。
温度計はその中に差しておきましょう。

④虫よけのためにコンポストキャップをかぶせ、ゴムひもを二重にかけてください。



⑤通気をよくするため、室内なら壁や床から5cmぐらい離して置きます。屋外なら雨に濡れない所で同じように風通しのよい場所に置きましょう。

⑥2日目は反対側に入れましょう。
3日目以降は空いているところに入れてください。2、3日後形はまだ残っていますが徐々に分解していきます。

⑦床材が慣れて温度が上がるまでに夏場は1週間、冬場は2週間ほどかかります。白カビが出たら慣れてきたしるし。1日1回は攪拌してください。



4. 熟成させましょう

①生ごみの投入は3ヶ月～6ヶ月位が目安です。(3ヶ月で30kg以上投入できます。)この頃になるとダンボールの底がへたったり、内側がくずれたりしてきます。また、床材の分解力が落ちてきて温度が上がらなくなり、べたついてきます。このようになってきたら、生ごみの投入をやめて熟成に入りましょう。生ごみの堆肥化を続けたい時はもう一つ新しいダンボールコンポストを準備して下さい。



生ごみを約30kg投入し熟成させた堆肥

②投入をやめたコンポストは、7～10日に1度500ml位の水分を補給しよくかき混ぜてください。その後も分解が進み、黒々とした堆肥になります。こうして1ヶ月以上熟成させてから使います。また、すぐに使わない場合はビニール袋に入れて保管して下さい。



土のようなにおいがして、にぎって手のひらにつくくらいが良い状態です。

5. 出来た堆肥の使い方

①庭や畑。

即効性が求められる肥料としてではなく土づくりをするための元肥としてお使い下さい。

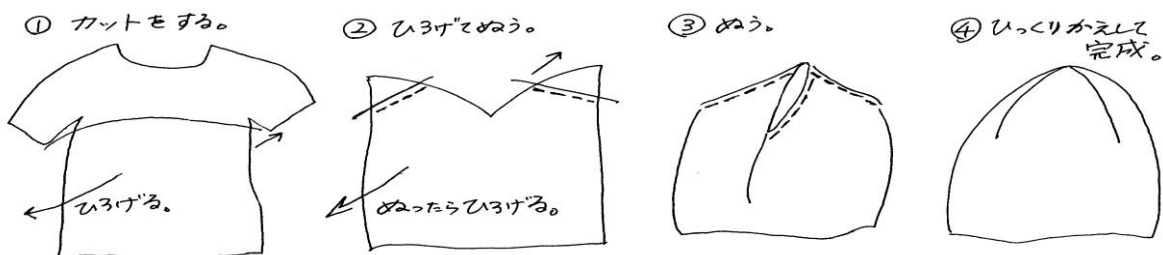
そのままの状態、作物に必要な肥料と一緒に使えます。植え付けの1週間以上前迄にすきこんでから使って下さい。

②プランターや植木鉢。

ふるいにかけて、未分解物を取り出してから使ったほうが安心かもしれません。排水性と通気性のよい赤玉と組み合わせてお使い下さい。(赤玉2～3に対して堆肥1程度)

6. 参考情報

コンポストキャップの作り方



★男性用Tシャツなどを再利用しましょう。

くん炭・ピートモスの販売店

ホームセンター等で販売しています。価格等詳細は各店舗へお問い合わせください。

* この説明書を無断で複写・転載することはお断りいたします。